

テーマ：消費者物価（全国2月、東京都区部3月） 発表日：2008年3月28日（金）
 ～3月の全国CPIコアも伸びが拡大する公算～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
 TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	0.3	0.1	▲0.3	5.3	▲0.3	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	0.0	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1
	6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	1.4	▲4.1	▲0.2	▲0.1	▲0.3	2.5	▲4.1
	7月	0.0	▲0.1	▲0.5	2.1	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	3.1	▲4.1
	8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	0.4	▲4.1	▲0.3	0.0	▲0.2	0.7	▲4.1
	9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1
	10月	0.3	0.1	▲0.3	2.3	▲4.1	0.1	0.0	▲0.3	2.8	▲4.1
	11月	0.6	0.4	▲0.1	9.3	▲3.9	0.3	0.1	▲0.1	11.0	▲3.9
	12月	0.7	0.8	▲0.1	15.1	▲3.9	0.4	0.3	▲0.1	16.8	▲3.9
08	1月	0.7	0.8	▲0.1	15.6	▲4.0	0.3	0.4	0.0	17.1	▲4.0
	2月	1.0	1.0	▲0.1	17.5	▲2.0	0.4	0.4	▲0.1	18.8	▲2.0
	3月	-	-	-	-	-	0.6	0.6	0.1	19.7	▲2.0

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○2月の消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+1.0%と伸びが拡大

2月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+1.0%と伸びが拡大し（コンセンサス：同+0.9%、レンジ+0.8%～+1.0%）、3月東京都区部（生鮮食品除く）も前年比+0.6%と前月から伸びを高めた（コンセンサス：同+0.5%、レンジ+0.2%～+0.6%）。

全国、東京都区部ともに事前コンセンサスを上振れて伸びが拡大したが、石油製品や食料品価格の上昇ペースが拡大したことが大きな要因である。また、東京都区部は移動電話通信料の下押しが一巡したこと、被服及び履物が上昇したことも影響した。

○上昇が顕著な石油製品と食料品がさらに伸びを高める

全国CPIコアの前年比は+1.0%となったがその伸びの多くは石油製品と食料品の寄与である点は変わらない。それぞれ寄与度をみると、石油製品の寄与度は1月+0.63%pt→2月+0.69%pt、生鮮除く食料品の寄与度は1月+0.20%pt→2月+0.27%ptである。ガソリンや灯油価格の伸び率が拡大してい

るほか、小麦などの原材料価格上昇を反映してパンやめん類などでの上昇が続いている。また、外食でもドーナツや中華そば、ビール、ハンバーガー、すし（回転ずし）など多くの項目で上昇幅が拡大した。特殊要因除くコア（※）の寄与度も+0.30%pt（1月+0.21%pt）と伸びが拡大するなど、物価上昇ペースは足元で一段と強まっている。

もともと、物価上昇が顕著な項目が石油製品や食料品関連に多い点には留意が必要だ。食料及びエネルギーを除く総合（全国、2月）では前年比▲0.1%（1月同▲0.1%）と引き続きマイナス圏で推移しているように、消費者物価全般に上昇圧力が生じているわけではない。あくまで原油や農作物価格などの原材料価格高騰に伴うコストプッシュによる物価上昇である。移動電話通信料の押し下げの一巡などによって3月の東京都区部では食料及びエネルギーを除く総合が前年比+0.1%とプラスに転じたため全国でも先行きプラスに転じる可能性はあるが、現状ではダイヤモンドプルによる物価上昇圧力はほとんどない。賃金の改善が鈍い中でこのような物価上昇は家計の購買力の低下や消費マインドの悪化につながり、個人消費を下押しする材料である。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信料、移動電話通信料、たばこを特殊要因としている。

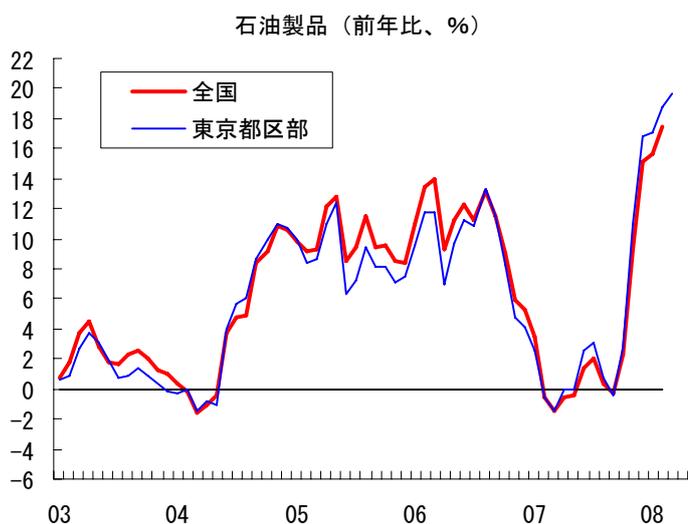
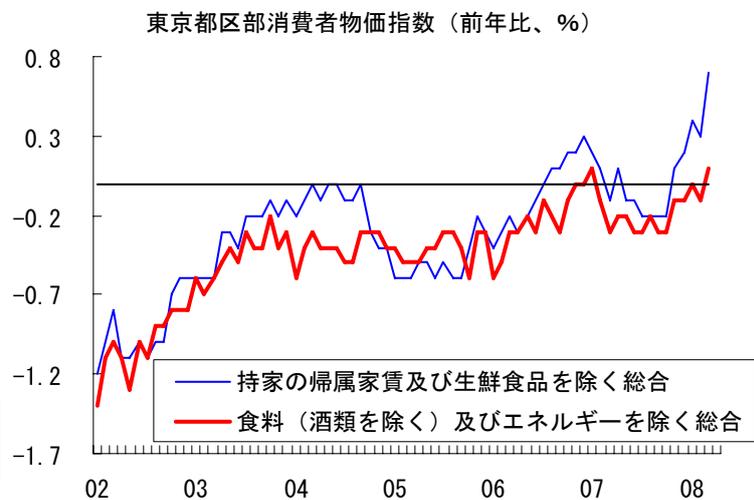
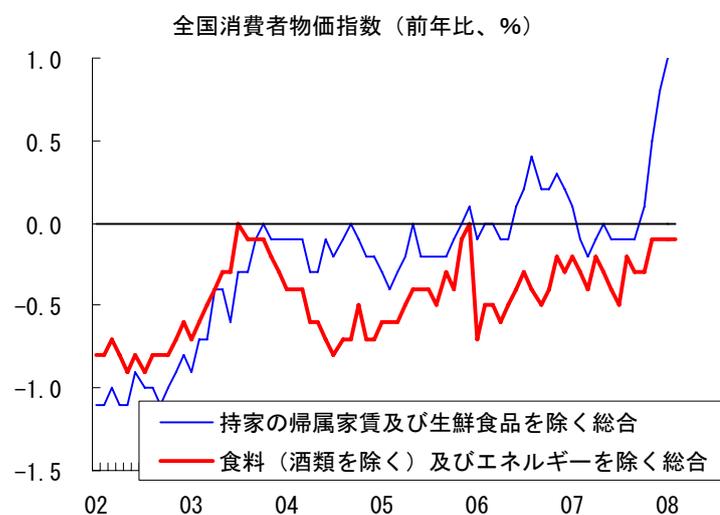
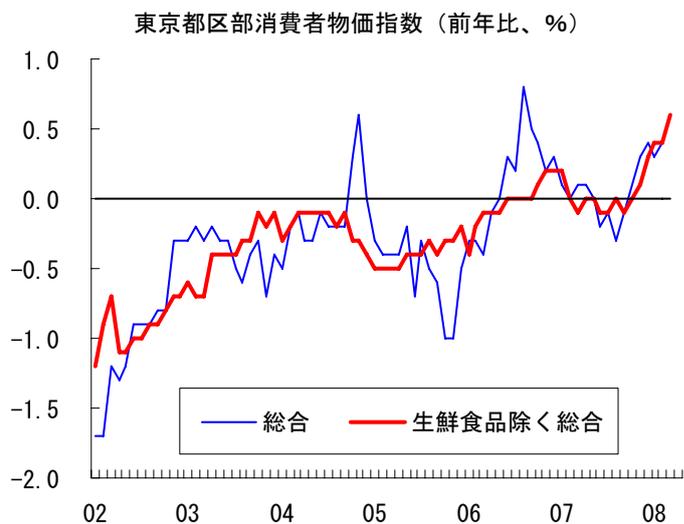
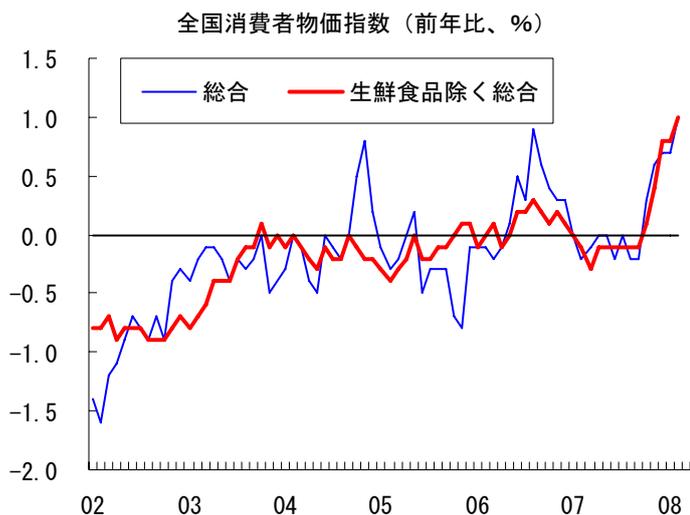
○3月東京都区部のCPIコアは前月から伸びが拡大、3月の全国も高めの伸びとなる見込み

3月の東京都区部消費者物価指数も前年比+0.6%と前月から伸びが拡大した。石油製品価格は前年比+19.7%（2月同+18.8%）、生鮮除く食料も同+1.1%（2月同+0.7%）と、それぞれ伸び率をやや拡大した。また、移動電話通信料（2月：同▲2.0%→3月：同▲0.1%）も昨年の値下げの影響が一巡したことでマイナス寄与が縮小し、被服及び履物なども上昇した。なお、特殊要因除くコアは伸びが拡大した（CPIコアへの寄与度：1月+0.12%pt→2月+0.28%pt）。

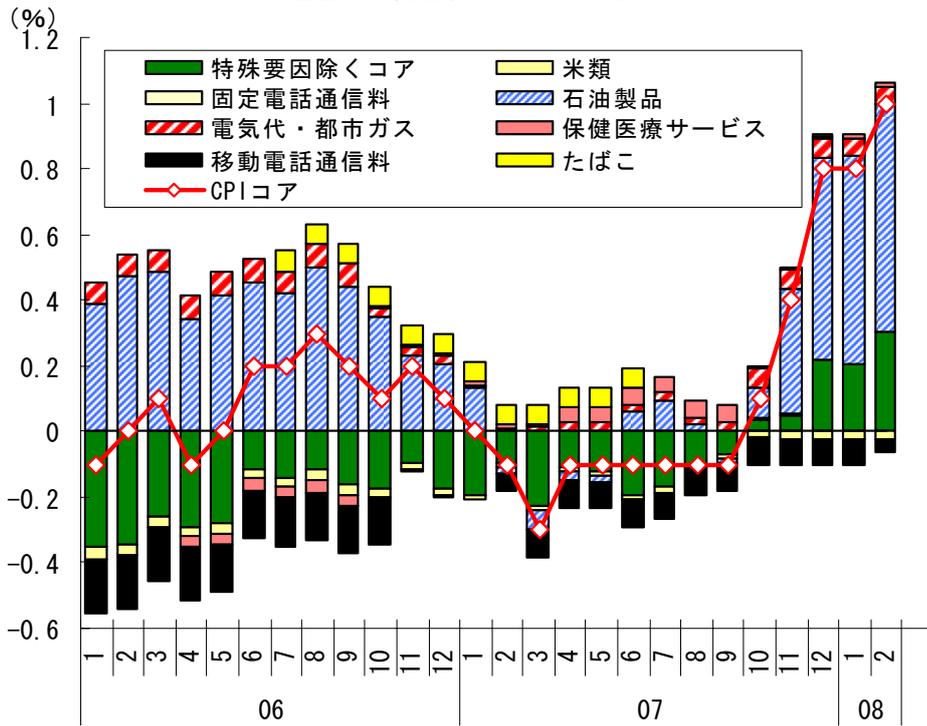
東京都区部の動向から試算すると、3月の全国消費者物価指数（コア）も前年比+1.2%程度と小幅伸びが拡大することを予想する。石油製品および食料品価格の上昇が続くことでしばらく高めの伸びが続くことになると思われる。

○ガソリン税の暫定税率は延長されなければ全国CPIコアを0.4%ポイント程度下押し

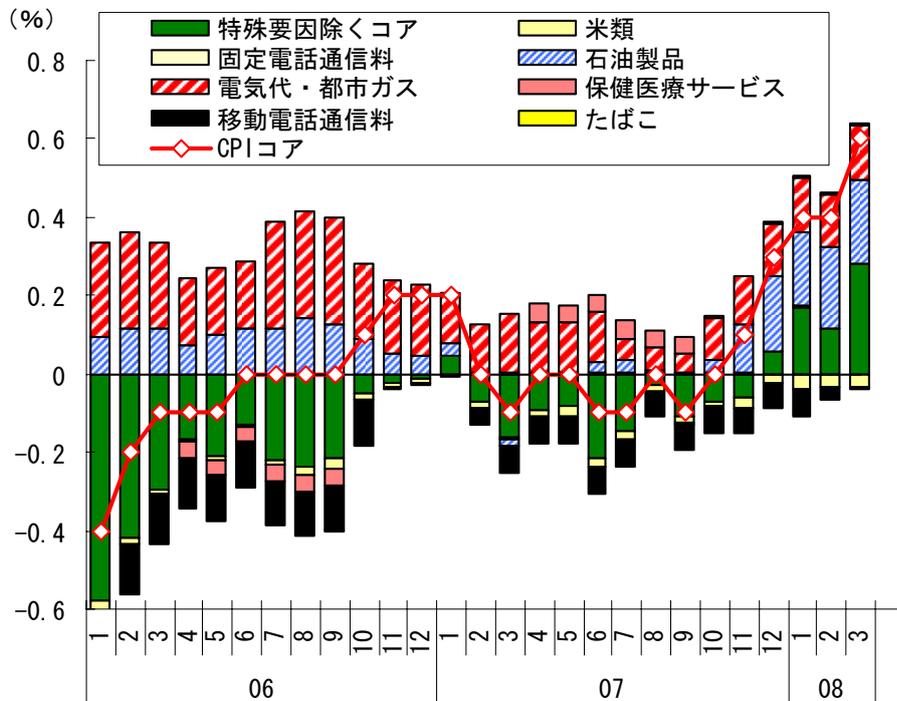
当面のCPIのかく乱要因となりそうなのがガソリン税の暫定税率の行方すなわちガソリン価格である。このまま暫定税率の延長が出来なかった場合には、4月にガソリン価格が引き下げられる可能性が出てきている。ガソリン税は小売段階よりも前に課税されるため、小売段階での価格を一斉に引き下げるか不透明な面もあるが、暫定税率が失効した分ガソリン価格が引き下げられた場合には全国CPIコアを最大で0.4%ポイント程度押し下げるインパクトがあることには留意が必要である。



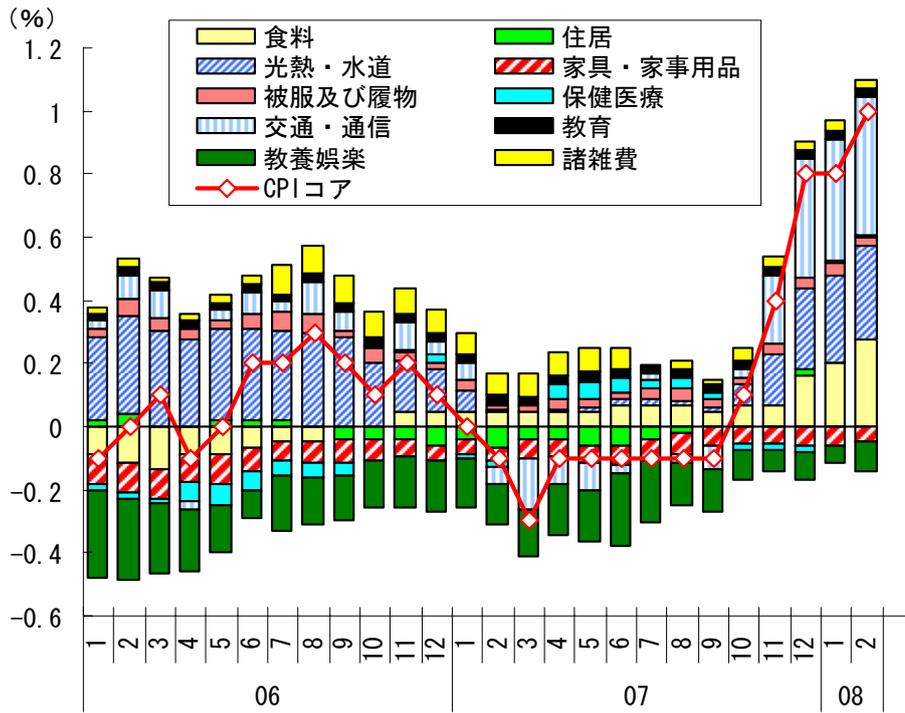
全国・消費者物価コア前年比



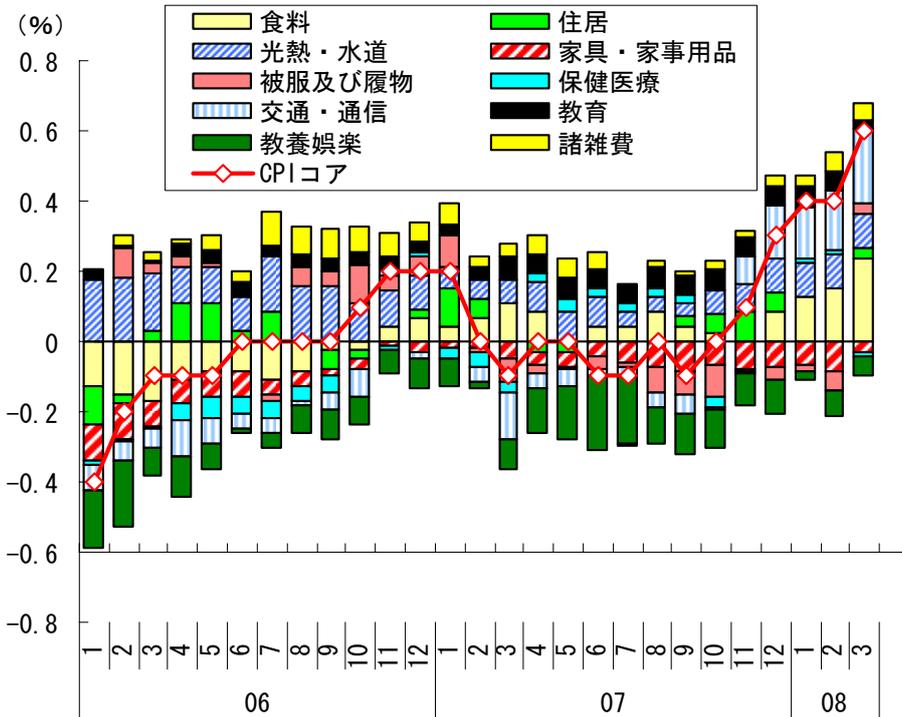
東京都区部・消費者物価コア前年比



全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」